

1学年だより

令和3年11月10日(水)

夢の宅配便

1年学年主任

水野 喜代治

進路

今日から3年生の第3回定期試験が始まります。このテストの結果が、進路の資料(評定)に大きくかわるので、3年生は緊張してテストを受けますと思います……。

私は、3人兄弟の一番下でした。一番上の兄は、東電学園高等部に進学しました。この学校は、東京電力が設立した全寮制の学校で、東京電力の技術者を養成するためのものでした。母子家庭で生活が苦しい我が家に、「高校卒業後に東京電力の社員になれるこの養成学校が良い。」と親戚のおじさんたちが積極的に受験を進めてきました。兄は「僕は、小田原高校か西湖高校に進学して大学の文学部に進みたい。」と泣きながら東電学園への進学を拒絶していました。「信一は、長男だから早く社会に出てお母さんを楽にしてあげなさい。それに弟が二人いるのだからお金をお前にばかりかけられない。」と大人の理論で兄は親戚のおじさんに説得されていました。東電学園は、企業の社員養成の学校であったので学費や食費や寮費の負担もなかったのです。母子家庭の苦しい生活の我が家では、渡りに船のような学校でありました。当時、小学校入学前の私には、親戚のおじさんが兄をいじめているとしか映りませんでした。ですから、兄と一緒に私も泣いたのを覚えています。

結局、兄は東電学園を受験しました。受験当日の朝、泣きながら兄はご飯を食べていました。「かあちゃん、俺は、受験に落ちるから、テストを0点とって落ちてくるから。なんで、なんで、俺は家族の犠牲にならなければならないの。」と泣きながらご飯を食べていました。兄が可愛そうで、私も一緒に泣きながらご飯を食べました。心の中で、「兄ちゃんが受験に落ちますように」と神様をお願いしたのを憶えています。

まだ外が暗い中、兄は玄関の戸を開けて、おじさんと東京の受験会場にでかけました。母が「信一、頑張ってね」と見送りました。見送った後に母の目も赤くなっていました。

兄は東電学園に合格しました。受験の日を境に、東電学園に行きたくないとは一言も言わなくなりました。高校の入学式の日、「喜代治、小学校1年生、頑張れよ！お母ちゃんに迷惑かけないようにするんだよ。」と何回も私の頭を撫でて、笑顔で東京に行きました。大好きな兄が家を出て行って、私は悲しくて、悲しくて涙が止まりませんでした。

高校入学後に兄は学生運動に走り、生徒自治の確立を求めて学校側と激しくぶつかります。そして、高校3年生の時に、退学となりました。退学になった時に兄を引き取りに行ったのは母一人でした。親戚のおじさんはだれも一緒に行ってはいませんでした。母は「信一には可愛そうなことをしてしまった。」と年老いて私によく話していました……。

3年生、今日のテスト、それぞれの自分の目標に向かって全力で頑張ってくださいと思います。3年生の第3回テストの緊張した表情をみると、いつも兄の事を思い出します。1年生もこれからみんな自分の道に向かって頑張ってください。